

わん

この頃は結婚式などのお祝い事で使われたものです。わんは二股や井、おがすなどの穴や等を入れる丸い型です。わんは材質によって、石製や陶磁焼製のもの「焼」、金属製のものは「鋳」、木製のものは「刷」と書きます。それらの中で陶磁焼製のものが江戸時代にたくさん作られるようになり、器種の豊富として使われるようになりました。陶磁焼製の碗は大変美しく美観があるので多くの人に使われるようになりましたが、おがすなどを入れる器は廻りが回りにくい方がよいので引き続き焼が使われ続けました。

今でも、私たちの食卓には目的に応じて様々な「わん」が並んでいます。

I-1-5

しょうかくちゅうこうがそつぎょうしょうしよ 小学中等科卒業證書

1885年（明治18年）に発行された小学校中等科の卒業証書です。明治時代になって近代的教育制度が整備されますが、初めは初等小学校の仕組みが変わりました。この卒業証書が発行されたころの小学校は、初等科3年、中等科3年、高等科2年の合計8年で、6歳から14歳までの子供が勉強しました。初等科と中等科は6歳から1歳まで、高等科は4歳から1歳まで、合計で16歳あり、6ヶ月ごとに試験を受けて進級する仕組みになっていました。この卒業証書には「中等女三級」「中等科三級」と書いてありますから、およそ10歳から11歳、今で言うところの小学生ぐらいの子がいたいたものです。今の卒業証書と基本的な書き方は同じですが、少し違うのは名前の上には身分を表す「平民」の文字があります。また、「十二年」「十三年五月」とあるのは明治13年に入学したことを表しています。小学校6年間の最後に卒業証書をおいたと今の小学校とは違いますが、一生懸命勉強をがんばって卒業証書を手にしたときの感動は昔も今もあまり変わりがなくていいでしょう。

I-1-6

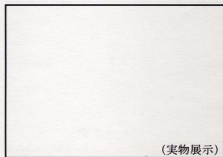
けしようどうぐいれ 化粧道具入れ

この化粧道具入れは、上には鏡を立て、下の引き出しには様々な化粧道具を入れることができるようになっています。今の鏡台に当たるものと言えますが、最近では大きな鏡のついた鏡台もあまり見られなくなってきました。

化粧道具の箱として大層に売られ、一般の女性に広く使われるようになるのは江戸時代のことです。当時は化粧の方法や美しくなる方法について書かれた本なども出版されました。「しわを伸ばして頬のように美しく見せる方法」「大きい白を補く見せる方法」「あつい唇をすくく見せる方法」「丸い頬を長く見せる方法」「髪型による化粧法」「唇を高く見せる方法」「髪より下が短いのを直す方法」などといった内容が書いてあったそうなので、当時の美の基準が分かります。中にはそのまま今の雑誌の発出として通用しそうなものもあります。

当時から「美しくありたい」という女性の気持ちに変わりはなくあります。

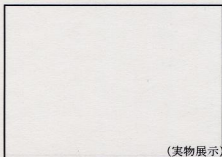
I-1-7



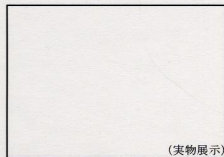
(実物展示)

わん

I-1-5



(実物展示)



(実物展示)

化粧道具入れ

I-1-7